

神戸大学学術成果リポジトリKernelと 神戸大学オープンアクセス方針

2017年度 第4回機関リポジトリ新任担当者研修
2017年9月22日（金）会場：国立情報学研究所
事例報告

神戸大学附属図書館情報管理課電子図書館係
花崎 佳代子

本日の内容

- ご紹介（神戸大学・Kernel）
- 統計
- 担当
- Kernelに関する業務
- オープンアクセス方針
 - 内容
 - 策定まで
 - 策定後
 - 反応
 - 変化
 - 振り返りと課題



神戸大学

沿革

1902～

神戸高等商業学校

・
・
・

1949～

神戸大学

構成員

学生数：16,144人
(学部生：11,589人
院生：4,555人)

教員：1,641人

職員：2,100人

(2017年5月1日)

学部（10学部）

文学部

国際人間科学部

法学部

経済学部

経営学部

理学部

医学部医学科

工学部

農学部

海事科学部

大学院（15研究科）

人文学研究科

国際文化学研究科

人間発達環境学研究科

法学研究科

経済学研究科

経営学研究科

理学研究科

医学研究科

保健学研究科

工学研究科

システム情報学研究科

農学研究科

海事科学研究科

国際協力研究科

科学技術イノベーション研究科

学術成果リポジトリKernel

由来：

Kernel = 「核」

神戸大学の学術研究の
「核」になって欲しい、
との願いから命名

公開時期：

2006.10～

システム：

InfoLib-DBR

Kernel Kobe University Repository
神戸大学学術成果リポジトリ

神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ 学内研究成果

更新日：2017/08/24 件数：5

詳細検索

カテゴリ

成果タイプ

学位名・授与年

ブラス

著者名

著者所属

掲載誌

お知らせ

2017年7月分(2017/8/2更新)
公開論文数: 24,850件
※本文まで閲覧可能な論文数です
[ダウンロード回数上位論文](#)

Kernelについて

・学術成果リポジトリとは

学術成果の登録方法

・学術成果の登録方法
・博士論文について
・紀要論文について

オープンアクセス方針について

・オープンアクセス方針について
・オープンアクセス方針に関するFAQ

神戸大学発行の紀要

神戸大学学術成果リポジトリKernel 神戸大学附属図書館

KERNEL
神戸大学の研究者が生産した論文などの学術成果を収集し広く公開するデータベースです。
<<最近の登録成果物はこちら>>
<<登録方法のご案内はこちら>>

検索キーワードを入力して「検索」ボタンをクリックしてください

キーワードを入力 検索 クリア

本文の有無 指定なし

「神戸大学オープンアクセス方針」を採択しました。

神戸大学は、学内の研究成果を網羅的に収集し機関リポジトリを通じて公開することにより、学術研究の発展に寄与するとともに本学の認知度の向上を図るため、2017年1月10日にオープンアクセス方針を採択しました。

詳細は下記のページをご覧ください。
[神戸大学オープンアクセス方針](#)

Kernelリニューアルのお知らせ

このたびKernelをリニューアルし、下記の点が変更となりました。

◆3つのDBが統合されました。

- ・Kernel
- ・博士論文データベース
- ・紀要目次情報データベース

本文のない博士論文や紀要目次の情報も、Kernelからお調べいただけます。

◆ダウンロード数が表示されるようになりました。

注：2016.9.1以降のダウンロード数です。

今後ともkernelをご活用くださいますようお願いいたします。

★検索画面では、下記の検索キーワードの連結が可能です。

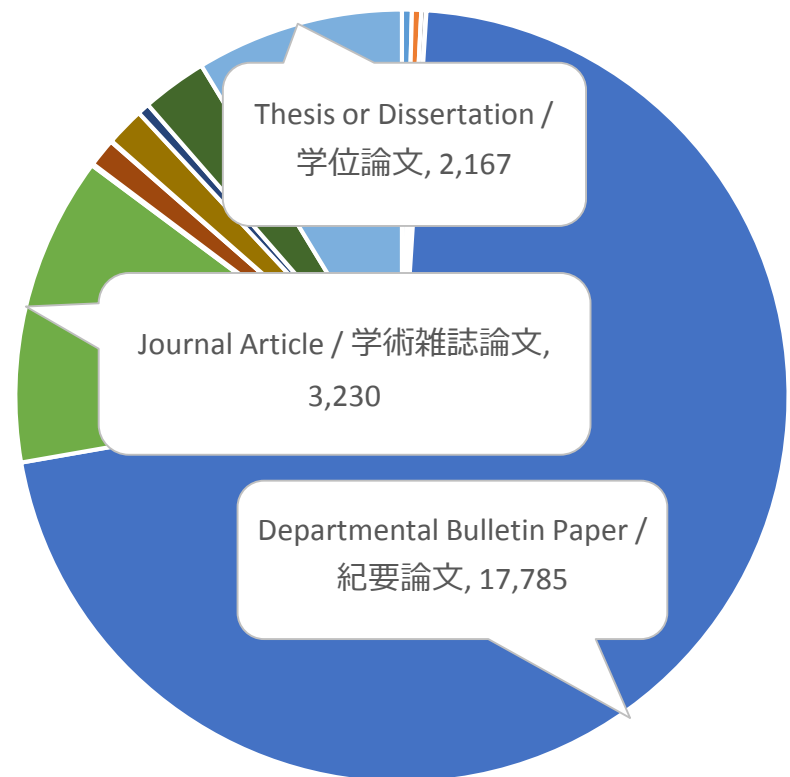
- 1.AND検索：スペース区切り 例)「歴史 神戸」
- 2.OR検索：パイプ (|) 区切り 例)「歴史 | 神戸」
- 3.NOT検索：エクスクラメーション・マーク (!) 区切り 例)「歴史! 神戸」

Kernel 資源タイプ別コンテンツ数

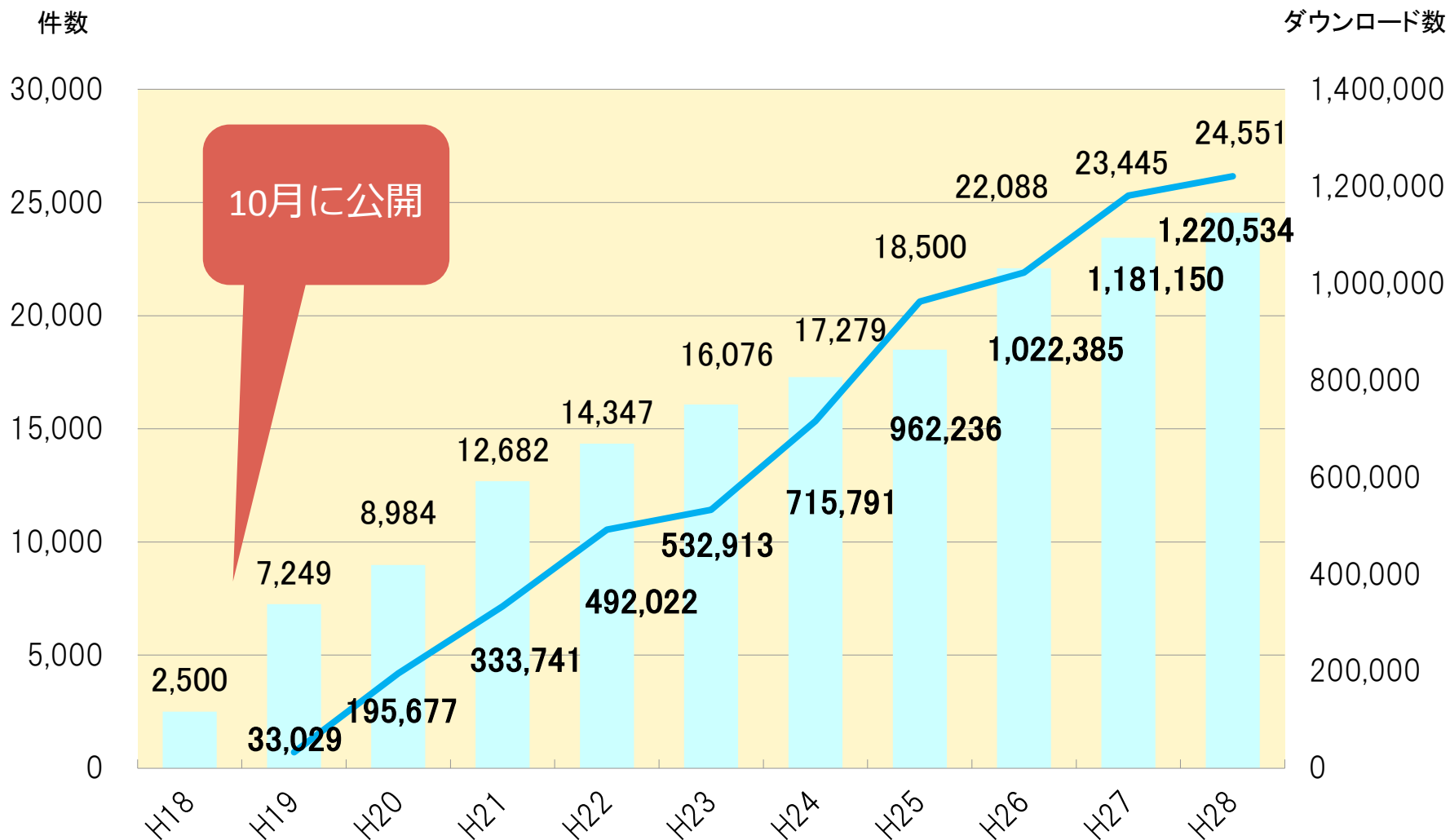
コンテンツ数（本文有）：24,966件（2017.8.31）

※本文無を含めると54,875件

資源タイプ	コンテンツ数
Article / 一般雑誌記事	103
Book / 図書	97
Conference Paper / 会議発表論文	51
Data or Dataset / データセット	2
Departmental Bulletin Paper / 紀要論文	17,785
Journal Article / 学術雑誌論文	3,230
Learning Material / 教材	18
Others/その他	294
Preprint / プレプリント	9
Presentation / 会議発表用資料	402
Research Paper / 研究報告書	126
Technical Report/ テクニカルレポート	682
Thesis or Dissertation / 学位論文	2,167
計	24,966



Kernel 件数/ダウンロード数



※H18年のDL数は半年分となるため記載せず
※件数は年度末の数値

担当の紹介（電子図書館係）

附属図書館

情報管理課

電子図書館係（計6名）

- 震災文庫
 - 阪神・淡路大震災関連の資料を収集・一部電子公開。
- 新聞記事文庫
 - 明治期～戦中の新聞記事切抜資料を電子化し、フルテキストとともに公開。
- 学内研究成果
 - Kernel
- 稀覯書・貴重書
 - . . . その他多数DBあり

デジタルアーカイブ全般の
登録～メンテナンス等を担当

Kernelに関する業務

学術論文

WoS（+研究者情報システム）
の論文情報から登録依頼

紀要論文

目次情報の登録
刊行元からの原稿受領

学位論文

【義務化後】
学部⇒学務部経由で原稿受領
非公表資料の管理
【義務化前】
著者への許諾確認・登録依頼

登録・公開

- HPでの月次統計通知
- DL数通知（自動）
- 論文登録時のTweet・HP掲載
- [Kernel通信](#)/教員インタビュー

オープンアクセス方針

2017年1月10日 学長裁定

2017年2月1日～ 適用

詳細⇒<https://lib.kobe-u.ac.jp/oapolicy/>

(趣旨)

1. 神戸大学(以下「本学」という。)は、世界最高水準の教育研究拠点の構築と世界的な存在感の向上を実現し、現代及び未来社会の課題の解決と学術研究の発展に寄与するため、神戸大学研究憲章に掲げられた目標の通り、**本学の卓越した研究成果を広く世界に向けて発信**する。このため、本学に在籍する役員及び教員(以下「教員」という。)によって得られた研究成果のオープンアクセスに関する方針を以下のように定める。

オープンアクセス方針 内容

(研究成果公開の権限)

3.

本学は、**教員**の**研究成果**を、**神戸大学学術成果リポジトリ**(以下「リポジトリ」という。)によって、インターネット上で公開する。ただし、研究成果の著作権は本学に移転しない。

教員：「学長、理事、教授、准教授、講師、助教、助手」

(KUIDにおける職名)

研究成果：「出版社、学会、学内部局等が発行した学術雑誌に掲載された、教員が主著あるいは共著を務めた学術論文等の学術情報」

神戸大学学術成果リポジトリ：[Kernel](#) (2006年より運用)

オープンアクセス方針 策定まで

2016年2月～	試案の作成
2016年3月	附属図書館運営委員会にて試案承認
2016年5月	研究者情報DBとKernelの連携について関連部署との打ち合わせ
2016年秋～	研究戦略関係会議、役員会等で審議
2017年1月10日	学長裁定
2017年2月1日	方針適用開始

要望をもとに見積依頼⇒
要望の実現可能性は低い
と回答在り
⇒再度交渉予定

オープンアクセス方針 策定後

2017年2月1日	広報開始（HPでの通知）
2017年4月～	学内説明会の準備
2017年7月	広報本格開始 （HPの情報増量、Kernel通信特集号発行）
2017年7月～	OA方針にもとづいた登録依頼
2017年7～10月	各研究科教授会での説明会

これをきっかけに運用上の詳細検討が進んだ

まずは
ワークフロー
検討中

- 15研究科・センター
- 計約900名のご参加（予定）

オープンアクセス方針 反応

著者最終稿の登録は出版者への著作権譲渡に抵触しないのか？

論文情報を列挙するのは手間なので、「これまで研究者情報システムに入力した論文全部」という依頼でもよいのか？

他大学や公的機関のリポジトリやOAジャーナル等ですでにOAでもKernelで公開の必要があるのか？

著者最終稿は査読を基準にした考えのようだが、自著の論文はほぼ査読がない。どのバージョンを送付すればよいのか？



オープンアクセス方針 変化

登録数

説明会后：登録依頼（数十件×数名）あり

登録依頼方法

- 研究者情報システムを情報源にして著者最終稿提供依頼

これまではGold OA分の依頼中心

- 出版社版登録・公開OKの場合は事後報告

教員の原稿提供の負担を削減

オープンアクセス方針 振り返りと課題

よかったこと

OAについてのコミュニケーションの増加

- 図書館内での話し合いの機会の増加
- 教員への周知（OA方針説明会）
- 他部署との協議
- 依頼自体の増加 ⇒ 出版社・学会とのやり取りの増加

今後の課題

- 登録方法（システム）の改善
- 学内発行紀要の包括許諾化働きかけ
- 図書館内でのOA推進体制の整備
- 他部局との連携

ご清聴
ありがとうございました